

兵庫県での実績から考えるアカミミガメの駆除戦略

谷口真理・三根佳奈子（(株)自然回復）・上野真太郎（東大・農・生圏/(株)自然回復）

亀崎直樹（須磨水/岡理大・生地）

The example of removal method on the red-eared sliders which introduced in Hyogo, Japan

By Mari TANIGUCHI, Kanako MINE, Shintaro UENO and Naoki KAMEZAKI

北米原産のミシシippアカミミガメ（以下アカミミガメ）は日本の水辺に広く侵入し、日本固有の淡水生態系に悪影響を与えている。兵庫県でも同様にアカミミガメは広く分布し、特に瀬戸内海沿岸の東播磨地域はその侵入が著しい。我々は、2010年より日本に定着したアカミミガメの研究や駆除を行ってきた。ここでは我々がこれまで実践してきた兵庫県内でのアカミミガメ駆除の実績からアカミミガメの駆除戦略を考えた。

兵庫県の中東部に位置する篠山市の篠山城跡お堀では、お堀に咲くハスの消失をきっかけに2014年から駆除が始まった。2014年から2017年までの4年間で1004個体のアカミミガメを捕獲した。捕獲方法は、駆除開始時は誘引罟によって集中捕獲を実施し、誘引罟による捕獲数が減ってきた2016年からは誘引罟での定期捕獲と日光浴罟常設による捕獲を併用した。その結果、捕獲数は年々減少し、除去法による推定生息個体数から駆除率は90.1%となり、お堀に生息するアカミミガメのほとんどは駆除できたものと考えられた。篠山城跡お堀は表水面積6.5haと大規模であるが、閉鎖的な環境で、またお堀周辺の河川やため池へのアカミミガメの侵入程度は低い。このような環境条件でのアカミミガメの駆除は、概ね3年で、アカミミガメの個体数の減少と低密度の維持の成果が期待できることがわかった。

一方、瀬戸内海沿岸に位置する明石市の谷八木川でもアカミミガメの駆除を実施した。谷八木川では生態系保全の観点から2013年よりアカミミガメの駆除が開始された。2013年から2017年までの5年間で2337個体のアカミミガメを駆除した。捕獲方法は、河川全域（河川距離約4km）を対象に誘引罟を設置し、2013年5月・6月に15日間カメを捕獲し続けた。その後は、定期的に誘引罟を同様に設置して、カメを捕獲した。その結果、2013年の集中駆除時に一旦、減少したアカミミガメの捕獲数は、その後の定期調査ごとに上昇した。集中駆除から3年後の2016年には単位努力量あたりの捕獲数は駆除開始程度に回復した。明石市の河川やため池は、アカミミガメの侵入の程度が高いことが知られており、かつ河川のような開放的な環境においては、集中駆除によりアカミミガメの捕獲数を一時低下させることは可能であるが、それを維持することは、今回用いた方法では困難であることが分かった。

以上の実績から、アカミミガメの駆除戦略としては、閉鎖環境においては比較的短期間で成果が期待できることから、保全上重要な地点の洗い出しを行い、それらを優先的に駆除していくことが有効であると考えられる。一方、開放的な環境における駆除は、カメの移動範囲や水系範囲を調査することにより閉鎖領域を明らかにし、その全域での駆除方法を検討する必要がある。